

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月28日実施)	総合評価(3月13日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	・自分らしく生きる 力」を育てるため、小学部から高等部までの一貫した教育活動の実践と教育課程を確立する	①個々の実態や教育的ニーズに合わせた指導を行うとともに、小学部から高等部まで連続的、系統的な教育活動を実践する。 ②湘南養護ブランドを活用した教育活動を定着させ、よりわかりやすく、主体的に学ぶ授業づくりを推進する。	①個別教育計画や年間指導計画を有効に活用した授業づくりを実践する。また、計画の見直し期間を設け、改善を行う。学部間で年間指導計画を共有し、小学部から高等部までを見通した目的を設定し指導を行う。 ②湘南養護ブランドを活用した授業づくりや良い取組紹介をするなど職員間で共有を図る。また、研修動画視聴等を通して専門性の向上を図る。	①個別教育計画や年間指導計画を計画的に見直し改善し、授業実践を行ったか。また、学部間で、年間指導計画の共有を図れたか。 ②湘南養護ブランドを活用した授業づくりが行われたか。研修会等で研修動画を活用できたか。	①各学部間で年間指導計画の共有を図った。年間指導計画の見直し、単元計画の作成は、各学部で取組みがすすんだ。個別教育計画の見直しは計画的な実施が不十分だった。 ②湘南養護ブランドに関する研修(6回)、専門職等の助言(100回以上)、精神科健診(7回)により活用の促進と指導の改善や授業改善を図った。年度末に実践報告会を実施した。(4ケース)	①系統的な教育課程とするために教育課程編成の確認と整理が必要。また、有効な授業改善の仕組みが必要である。 ②学部を超えて良い実践の共有化を図り、有効性の検証と指導の定着を図る必要がある。また、実践につながるニーズにあった研修会等を実施し、専門性の向上を図る。	①学校運営協議会(以下CS)連絡帳や作業日誌以外にどのような活動を行っているのかわかるものがあるとよい。 ②保護者アンケート：小中学部では「十分行われている」の評価が69%に対し、高等部では60%に留まっている。	①年間指導計画等の活用や授業改善の取り組みができたが、学校全体としてカリキュラムマネジメントの仕組みが整理されていない。保護者によりわかりやすく学習内容を示す必要がある。 ②湘南養護ブランドを活かした指導により、児童生徒の主体的な活動につながった取組みが見られた。	①授業改善の仕組みづくりを進める。保護者に年間指導計画を提示する。また、個別教育計画の見直し期間を設け、子どもの実態の変化に合わせて見直しを行う。 ②職員間の学び合いが活性化するように、ミニ研修会等の実施やこれまでの取組みの実践報告をするなど情報交換できる場を設定する。
2 児童・生徒 指導・支援	・児童・生徒一人ひとりのコミュニケーション力の向上をめざし、個々の特性に応じて、人権に配慮した指導・支援を組織的に行う	①一人ひとりに適したコミュニケーション手段の獲得を図り、主体的に伝えることができる指導、支援を行うとともに、家庭や地域でも活用できるようにする。 ②人権に配慮し、児童生徒の特性に応じた適切な対応と環境設定を行う。	①コミュニケーションツール活用に関する研修会、ミニ学習会・報告会を日常的に実施し、実際の指導に活かす。また、家庭や事業所、実習先、進路先での活用につなげる。 ②呼称、距離感、環境設定など、人権に配慮した指導の基本をおさえ、指導を行う。職員向けアンケートを年2回とる。	①研修会や学習会で得た内容を活かした指導を実施し、児童・生徒が自分に合ったコミュニケーション手段を獲得し、活用できたか。 ②人権に配慮した指導について学部内で定期的に確認し、アンケート結果の向上がみられたか。	①教材展、教材研修会、学部内研修、ST相談、ケース会を実施。個々に応じたコミュニケーション指導方法について職員が学ぶ機会を作り、指導に役立てた。 ②定期的な振り返りや研修会を実施の他、適宜人権に配慮した関わりについて呼び掛けるなど確認し合った。職員アンケート結果は、84%が良い評価であった。	①家庭や進路先など学校以外でのコミュニケーションツールの活用が進んでいない。 ②児童生徒との距離感について職員ひとり一人が意識して指導に当たる必要がある。	①保護者アンケート：「教職員は児童生徒一人ひとりの実態に応じたコミュニケーション指導を行っていますか」の項目で90%が良い評価である。 ②保護者アンケート：「教職員は児童生徒の人権を尊重した接し方をしていますか」の項目でA評価が昨年度65%から81%と大きく評価が上がった。	①個々に応じたコミュニケーションツールの活用について教員間で共有し実践につながる事例が増えた。しかし、学校以外でのツールの活用について理解・推進を図る必要がある。 ②人権に配慮した指導についての定期的な振り返りや呼びかけは効果的であった。「さん」付け呼称が定着してきた。	①引き続き、実践を積み重ね効果的な取り組みの事例を増やす。また、保護者や地域との連携を深め、家庭や地域でコミュニケーション手段が使えるようにする。 ②児童生徒との距離(不必要な接触を避けるなど)に配慮するよう定期的な呼びかけや研修を行う。「さん」付け呼称を徹底する。

	視点	4年間の目標 (平成2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月28日実施)	総合評価(3月13日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	・自立と社会参加をめざし、児童・生徒一人ひとりのニーズと適性に合った進路指導・支援を行う	①個々の社会的スキルの向上をはかり、社会参加に結びつく指導・支援を行う。	①個々に応じた社会的スキルの向上を図るため、学部ごとに指導方法の共通理解を図り、キャリアパスポートを作成する。	①学部の実態に応じたキャリアパスポートが作成できたか。	①キャリアパスポートを各学部の実態に合わせた書式で作成した。 社会的スキルの向上を目指し、各学部で系統性を意識して取組み、成長が見られた。	①キャリアパスポートをより有効活用できるよう、各学部学年の実態に応じた書式の改善が必要である。	①保護者アンケート：「進路に関する情報提供」について一番関心が高い結果である。CS: アンケートからもわかるように、保護者の進路の関心が高い。進路の情報収集がもっと必要なのではないか。	①各学部において自立と社会参加に向けた取組みについて、系統性を意識し指導・支援ができた。保護者のニーズに合わせた進路情報の提供が必要。	①一人ひとりに合った手立てを実施し、着実なスキルアップができるよう、スモールステップで確認して進めていく。進路だよりや懇談会等で各学部学年のニーズに合わせた進路情報を提供する。
4	地域等との協働	・共生社会の実現に向け、インクルーシブ教育の推進及び障がいのある子どもの理解をすすめるため、地域との連携、協働による活動を展開する	①交流及び共同学習や地域資源を活用した学習活動をとおして、インクルーシブ教育を推進する。	①コロナ禍でも実施可能な方法を工夫し、地域の学校との交流及び共同学習や地域資源を活用した学習を展開する。	①地域学校との交流及び共同学習を実施できたか。 地域貢献活動や地域資源を活用できたか。	①学校間交流については各学部計画通りに実施することができた。居住地交流は、今年度52回実施した。(昨年度12回) 学校運営協議会の防災安全部会を発足し、地域と連携した防災への取組みの検討がスタートした。	①双方向にとって学びのある交流及び共同学習となるよう内容の検討が必要である。	①CS: 防災安全部会が発足したことは、今後の地域の防災の推進が期待できる。地域の防災訓練に来年度参加していただけるように検討している。	②コロナ禍で中断していた学校間交流や居住地交流が徐々に再開することができた。湘南ベルマーレとの連携事業は今年度実施できなかったが、次年度計画していく。	①学校間交流について相手校と連携を図り、交流のありかたについて検討、実施する。地域防災訓練に参加し、防災安全部会活動内容について検討し連携を深めていく。
5	学校管理 学校運営	・安心・安全な学校づくりの推進のため、危機管理体制の確立を図る ・教職員の専門性の向上及び不祥事の未然防止を図る。	①各マニュアルやガイドラインを整備し、それに即した対応ができるようにする。 ②事故・不祥事防止に向けて、全職員が主体的に課題意識を持ち取り組む。	①各マニュアルやガイドラインをいつでも活用できるように整えるとともに、必要に応じて柔軟に見直す。 ②ヒヤリ・ハットの事案について、全職員で共有するとともに、改善方法、その後の取組みの検証を行う。	①各マニュアル、ガイドラインが日常的に共有され活用できたか。 ②ヒヤリ・ハット事案をチームで振り返り、事故・不祥事が防止できたか。	①各マニュアル、ガイドラインについて、各部署で適宜見直しをし、改訂、周知を行った。 ②ヒヤリ・ハット報告の書式を改訂。事案が起きた場合は打ち合わせにおいて学部長から報告するよう改善した。毎月の不祥事防止自己点検資料を有効活用することで、一人ひとりが確実に取組み考える機会となった。	①各マニュアル等が使いやすい場所に整備されていない。 ②ヒヤリ・ハット報告がスピーディにあがってこなかったり、情報共有の取り組みが徹底できなかったりした。	①「児童生徒にとって安全で安心できる教育環境が整えられていますか」の項目で保護者アンケート94%が良い評価。 ②CS: ヒヤリ・ハット報告は安全な教育活動の実施に必要なことである。改善して継続してほしい。	①マニュアルの見直し等が進められたが、一括した管理方法について対策が必要である。 ②ヒヤリ・ハットに関する報告や全校での共有について報告の流れを整理したが、やや形骸化してしまっただけ。	①職員室内の整理整頓とマニュアルガイドラインの保管場所を整備する。必要に応じてマニュアル等の改訂を実施する。 ②速やかな報告連絡相談を徹底し、ヒヤリ・ハット報告の仕組みがスムーズに実施できるようにする。